

診断・鑑別診断

蛍光抗体直接法で C3 の基底膜部への線状沈着を認める。CLEIA/ELISA で 17 型コラーゲン NC16a 領域に対する自己抗体が陽性になる。掻痒が激しく Dühring 疱疹状皮膚炎に類似するが、IgA の沈着を認めない点で鑑別する（表 14.6）。

治療・予後

ステロイド外用薬を中心に用いる。重症例ではステロイド内服。本症は出産後 2～3 か月で消退することが多い。次回妊娠において約 90% が再発する。経口避妊薬を使用すると再燃するため注意が必要である。

3. 粘膜類天疱瘡

mucous membrane pemphigoid ; MMP

同義語：癩痕性類天疱瘡（cicatricial pemphigoid）

主に口腔，眼粘膜に水疱やびらん性病変を生じ癩痕を残す（図 14.38）。外陰部，肛門周囲，咽頭，食道，鼻粘膜に病変がみられることもある。眼瞼癒着と呼吸困難が生じた場合には早急な治療が必要となる。17 型コラーゲンの C 末端領域（図 14.31），ラミニン 332 や α_6/β_4 インテグリン（とくに眼型）に対する自己抗体が存在する。

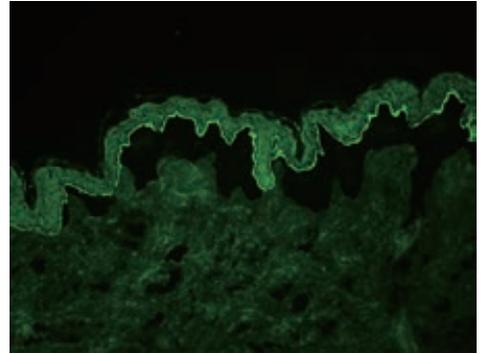


図 14.36 水疱性類天疱瘡での 1M 食塩水処理蛍光抗体間接法（split skin 法）

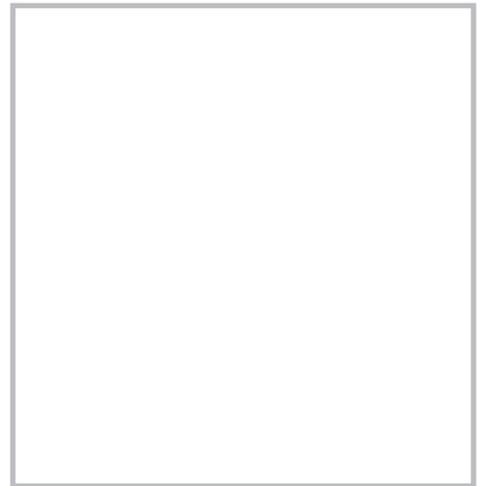


図 14.37 妊娠性類天疱瘡（pemphigoid gestationis）

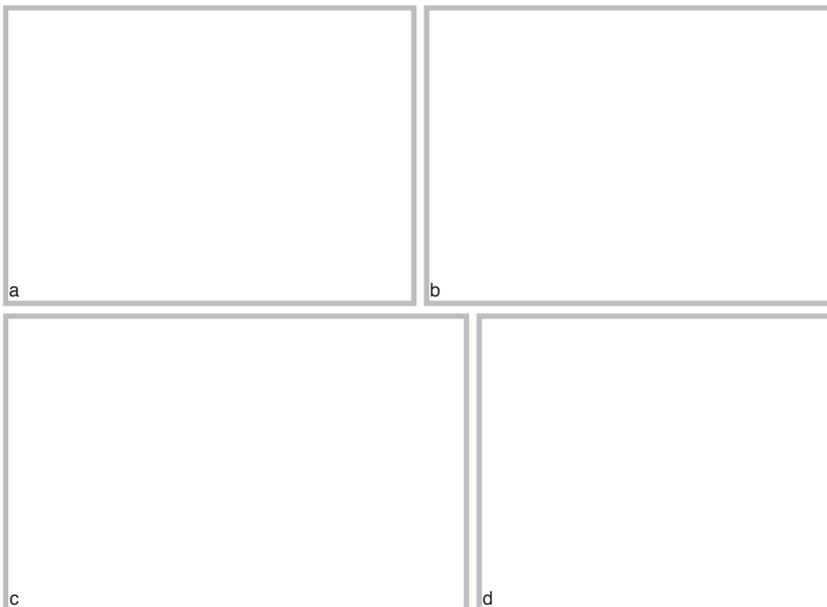


図 14.38 粘膜類天疱瘡（mucous membrane pemphigoid）
a, b：眼のびらん，癩痕。c, d：口腔内のびらん。